

歩こう会日記 白い花の季節

2008年5月1日 曇り時々晴れ 参加者 13名

集合場所のオアシス森相生口は、樹は切り倒され…歯抜けのように西の空が見え…道路工事の機械の音と白い土がむきだしになった様子には胸が痛みました。

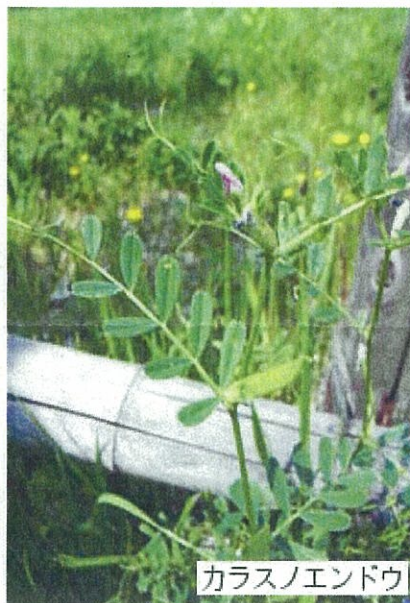
天気は曇り空で少し蒸し暑い日になりそうです。



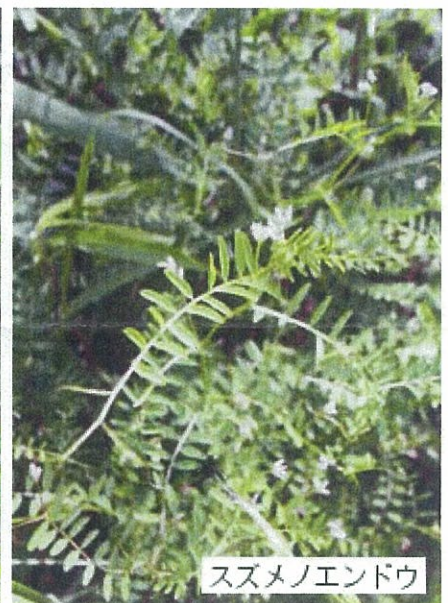
森の入り口のところでカスマグサをみつけた。カラスノエンドウやスズメノエンドウと同じマメ科。カスマグサの名前の由来はカラスエンドウとスズメエンドウの間というのでついたそうです。結構単純なんですね。



カスマグサ



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ

竹林をぬけると——鳥の声。耳をすます。なんて聞こえる？—ポッピリピー、ピピロピピロ——
(クリックするとキビタキの声が聞こえてきます。)

言われればそんな風に聞こえるが、鳥の声を聞き分けるのは難しい。キビタキだ。7-8種類の鳴き方をする。時にはコジュケイのようにチョットコイ、チョットコイと鳴いたりもするそうだ。相生山には渡りの途中で1ヶ月ぐらい滞在するらしいので、運がよければ黒と黄色のコントラストの綺麗なキビタキに会えるかもー。是非会いたいですね。しばし可愛い声に聞き入った。

森の中に入っていくと蒸し暑いせいか黒い虫が顔の周りにまとわりつく。自分だけ虫に好かれているのかなーなんて思うぐらいうっとうしい。

「道路工事のため危ないから入ってはいけません」の看板に行く手をさえぎられて、山の上のほうに向かう。サワフタギの白い花がきれい。小さい花のかたまりがふわふわと葉の上にのっている。沢を塞ぐように茂るのでその名がついた。これも単純。



この先ホタルのステージ(稲田口)



稲田口付近(ホタルのステージを望む)

ちょっといつもとちがう道へ。「通りぬけできません」の脇道にはいってみる。

ヒメカンアオイの群生地があった。そしてそこに来た方が大きな穴に向かって手をあわせている。「どうしてですか？」と聞いたら、「この穴は太平洋戦争の砲弾跡だから毎日まわっている。」ということでした。相生山に4,5箇所あるそうです。60年以上たった今もー。

元の道に戻り菅田口へ。手入れのされていない竹林をすぎると住宅地に入った。そこでNさんが「こんなのがいたよ」と2センチぐらいの虫。お腹を上にして置くとぴょーんと跳ねてちゃんと着地。おもしろくて何回もさせてしまっでごめんなさいね。足に褐色の毛があるのでオオナガコメツキだそうだ。

足元にはツボスミレ。白いところに紫の筋が入った可愛い花をつけている。花が咲いて受粉して種ができる方法と閉鎖花〜つぼみのように花を閉じたまま〜自家受粉して子孫を残す2つの方法をもっている。閉鎖花を見てみたいですね。草地にキツネアザミが可愛い薄紫の花をつけていた。アザミと同じキク科ではあるがアザミ属では無くキツネアザミ属である。アザミは棘があって野生的。

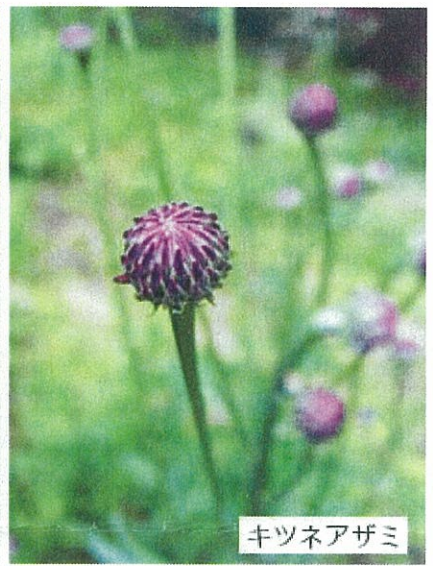
キツネアザミは棘が無く女性的で可愛い花ー異議のある人はいませんよねー



オオナガコメツキ



ツボスミレ



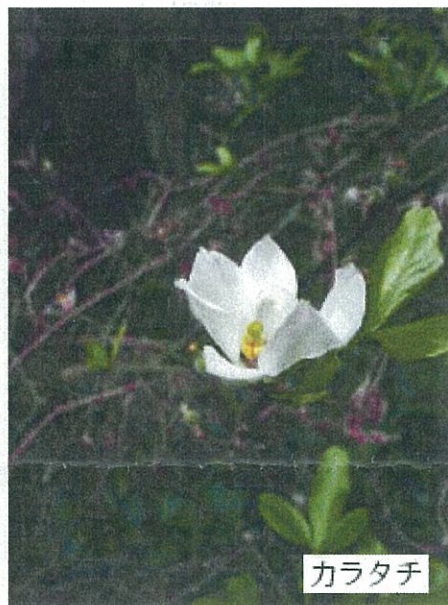
キツネアザミ

住宅地を一回りしてトンボ池にでた。池にはヤゴ、オタマジャクシ、ハチ——セリ、ヘラオモダカの白い花は満開。去年は一緒に咲いていたトチカガミの花は見当たらず、でも水辺は生き生きとして楽しい。

カラタチの実を見つけた方が「花をみたーい」と言ったら、まだ花をつけた木もあって大感激。白い可憐な花と緑のかたい実と大きな棘。なんだかアンバランスな木だなー。カラタチの棘はいたいよ。気をつけましょ。



ヘラオモダカ



カラタチ

そろそろ時間なので帰路についた。途中大きなカナメモチの木があった。毎年蛍の季節に夜歩いていると、真っ白な雪のような大きなかたまりが目の前に現れてびっくりする。あれはカナメモチの花だったんですね。夜でもあんなに目立つのは何か意味があるのかしら??

そういえばズミの花もコバノガマズミの花も白かったですね。ではまた来月の歩こう会で。EN.